

〔大学地域連携力強化セミナー〕

# 地域活性化における大学の役割とは

-産業振興と歴史文化振興から大学の地域貢献を考える-

The Engaged University

Universities have multiple forms of engagement with society

産学連携や地域連携活動は、大学の使命、地域の一員としての責務であるだけでなく、各大学の教育・研究活動を深みのあるものとし、独自性・特徴を創出する源泉として重要な役割を持ちます。そのため、大学経営の観点からも戦略的に取り組むことが、必要不可欠となります。本セミナーでは、イギリスの大学地域連携政策、産業振興や地域開発事例と地域貢献度日本一の信州大学の自然・伝統文化振興による地域活性化事例を通じ、次世代の大学-地域連携の在り方を考えます。多くの教員・職員・学生、地域の皆様の参加をお待ちしています。

2013.11.13 〔水〕 13:30～16:45

参加費無料〔要申込み〕

場所：信州大学 松本キャンパス（松本市旭3-1-1）人文-経済合同棟6F会議室

※各キャンパスSUNS会議室からも参加いただけます

主催：文部科学省 科学技術・学術政策研究所・信州大学



講演1

「英国における貢献する大学と地域開発」  
ストラスクライド大学 デイビッド・チャールズ 教授

（講演・質疑は逐次通訳が入ります）



講演2

「地域の魅力を認識した地域づくり -飯山市小菅の場合-」  
信州大学 笹本 正治 教授

## プログラム

- 12:30～ 開場・受付開始
- 13:30～ 挨拶：野澤 一博 様（文部科学省 科学技術・学術政策研究所 上席研究官）
- 13:35～ 挨拶：三浦義正（信州大学 理事・副学長）
- 13:40～ 講演1：デイビッド・チャールズ 教授
- 15:15～ 講演2：笹本正治 教授
- 16:35～ 総括
- 16:45 閉会

### 【問合せ】

信州大学地域戦略センター セミナー事務局  
MAIL : areas@shinshu-u.ac.jp  
TEL/FAX:0263-37-2075 / 2076

# 講師紹介



 University of Strathclyde

Prof. David Charles (デイビッド・チャールズ教授)

英国・ストラスクライド大学地域経済開発・政策学教授。現在、アングリア・ラスキン大学、カーティン大学、タンペレ大学、ニューキャッスル大学にて客員／非常勤教授を併任。カーティン大学研究開発部長、ニューキャッスル大学「知識・イノベーション・技術・企業センター」ディレクターを歴任。英国政府、OECD、その他機関に大学・地域の関係について助言し、英国全土の大学のビジネスへの関わりにおける年間報告システムを考案した。近年の著書に“Building Localised Interactions Between Universities And Cities Through University Spatial Development”、“The role of universities in building knowledge cities in Australia”などがある。University of Strathclyde, Professor of Regional Economic Development and (プロフィール詳細 [http://www.eprc.strath.ac.uk/eprc/cv\\_dc.php](http://www.eprc.strath.ac.uk/eprc/cv_dc.php))

## Summary

Over the past two decades there has been a growing interest in the UK in what can be termed the engaged university - a recognition that universities have multiple forms of engagement with society, and particularly with their local region. These forms of engagement spread well beyond technological links with industry to encompass culture, health, the environment, social services and urban and rural development among others. With financial support from higher education funding councils, universities have taken a more strategic view of their local partnerships and recognised their responsibilities to their communities. The presentation will outline the rationale for regional engagement and the main policy developments in the UK which have assisted the process. Examples of some of the more significant initiatives to support links with industry will be outlined with evidence of their success in older industrial regions.

この20年、英国では貢献する大学と呼び得る、大学が社会、特に地元地域に対し多様な貢献形態を持つことへの関心が高まっています。これらの貢献の形は産業界との技術的な連携をはるかに越えて、文化、健康、環境、社会福祉、そして都市と田舎の開発を取り込むまでになっています。HEFCEからの財政的な支援を得て、大学は地元における協力関係についてより戦略的な見解を持ち、コミュニティに対する責任を認識するようになりました。本セミナーでは地域貢献の論理的根拠の概要、及びこれらの過程に助力してきた英国の主要な政策展開の概要をご説明します。産業界との連携を後押しするのに一層重要となるいくつかの戦略の実例も、古い産業地域での成功事例により概説する予定です。



 信州大学

笹本 正治 教授

信州大学副学長、図書館長、人文学部教授。研究分野は、日本中世・近世史  
名古屋大学文学研究科修了 博士(歴史学)

研究テーマは:山村の歴史、音や場などに対して日本人が抱いた感性の歴史、災害に対応して  
いかなる文化が生まれたかの解明、戦国大名武田氏の実態追求、鑄物師などの職人の歴史解  
明など (プロフィール詳細は、<http://soar-rd.shinshu-u.ac.jp/profile/ja.WUmgJAU.html>)

## 〔講演概要〕

長野県飯山市瑞穂地区「小菅集落」における地域の歴史・伝統文化を核とした連携事業をご紹介します。飯山市と信州大学は2004年に連携協定を提携し、これまで数多くの調査・研究事業を連携して進めてきました。通常、大学の地域貢献や地域連携活動では、技術開発や新産業育成がイメージされやすいかもしれませんが、信州大学では中山間地の伝統技術や文化遺産などの調査・研究を進め、地域振興に寄与することにも力を入れています。その成果として2011年には「柱松行事」が文化庁の重要無形民俗文化財にも指定されました。本セミナーでは、大学と地域が協働し、地域の伝統・文化の継承に取り組むことが、地域にどのような影響を与えるのかを講演する予定です。